

# 食品の安全と 堆肥化の取組について

～県内のカット野菜製造工場、  
バイオガスプラントを訪問しました～

沖縄総合事務局消費・安全課では、食品関連事業者を訪問して食の安全・安心の取組状況の聞き取り、意見交換を行っています。

最近、スーパーなどでサラダやカット野菜商品をみかけることが多くなりました。そこで、県内でカット野菜商品を製造している沖食スイハン株式会社を訪問し、金城代表取締役社長と上里工場長にお話を伺いましたので紹介いたします。

## 沖食スイハン株式会社糸満工場



工場長によると「当社では、沖縄の皆様に野菜をご賞味いただけるように約20年前からパッケージサラダの受託製造を開始し、約7年前からはお惣菜大手食品メーカーから受託を開始し、製造を行っております。

現在のパッケージサラダの生産数量は、1日平均約2万パック前後、1ヶ月約61万パックを生産しており、業務用のカット野菜を含め野菜事業のみで、月平均65万パックとなります。

夏秋期の野菜原料仕入先は主に県外ですが、冬春期は沖縄県産のキャベツ・レタス等が出回るため本島南部の契約農家様から仕入れています。今後、沖縄でも夏場に野菜が生産され、カット野菜の原料として使用できることに期待したい」とのこと

でした。

## ◆食品の安全管理に関する取組

入荷した原料野菜がどの商品に使用され、商品がどの店舗で販売されたかについての情報を記録することにより、不測の事態が発生した場合でも追跡できる体制が構築されています。



カット野菜商品と金城代表取締役社長



契約農家のほ場（収穫の様子）

## ◆資源循環の取組

原料として適さない外葉や芯などの部分で廃棄される量は年間約650トンです。これらについては、株式会社八重瀬堆肥センターで堆肥化するなど地域資源として循環利用されています。

## 株式会社八重瀬堆肥センター



八重瀬町バイオガスプラントでは、乳用牛ふん尿や食品残さ等の廃棄物からメタン発酵処理によってエネルギーを回収し、発電をすることで地域資源として循環利用しています。一部の電力は施設内で利用するほか、やえせ桜まつりに供給するなど地域貢献の活動も行っています。

また、メタン発酵処理の副産物としてできたバイオ液肥は毎日60トン、100トンを超えてサトウキビ、牧草、野菜、花きなどに散布するなど地域農業に利用しています。



食品残さの受入れの様子



バイオ液肥を施肥したブロッコリーほ場

沖縄総合事務局としても、食の安全・安心に関わる取組や様々な情報を消費者の皆様にご紹介してまいります。

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課  
☎098-866-1672